様式 1

倫理審査申請書

2026 年　9 月　12　日

医療法人社団東光会
牧野記念病院　院長　殿

申請者
氏　名(代表)　　田中　華　　印

倫理委員会規定による審査を申請します。

1.課題名　B病棟における整形外科患者の転科要因と早期看護介入の検討 ※受付番号			
2.代表者名　田中　華	所属　本館 3 階	職名　看護師	
3.共同担当者名　伊海　美唯　胡　文哲	所属　本館 3 階	職名　看護師	

4.概　要　(具体的に記載すること)

(1) 目的

牧野記念病院の本館 3 階病棟は地域包括ケア病棟であり、大腿骨頸部骨折や腰椎圧迫骨折等の整形外科疾患患者が多い。2026 年1月～6 月約半年間、入院患者は 4588 名おり、そのうち整形外科患者は 3237 名、全体の約 70%の割合を占めている。

しかし、入院後に肺炎や心不全などの内科的疾患の悪化や合併症により他科併診や転科を要する患者もみられる。実際、上記の半年間、本館 3 階病棟では他科と併診した患者が 8 名、転科した患者が 4 名であった。地域包括ケア病棟では在院日数を考慮した退院支援が求められており、転科による治療の長期化は入院期間の延長やADL低下、退院先の変更、患者や家族の負担増加など患者の転帰へ影響をおよぼす可能性がある。

そのような患者を目にして無力感を感じることがあった。なぜそのような事態に陥るのか、日々看護をする中で不足していることがあるのか、疑問に感じたため要因を調べようと本研究のテーマとした。

参考文献を調べるうちに類似した先行研究があった。高齢社会が進む中で安全な治療を行うためには他科との連携を強化することは必須であると言及されており、 本研究では、整形外科患者の転科に関連する要因を明らかにし、他科併診の時期や早期介入につながる看護支援について検討することを目的とする。

また、対象症例数が限られているため、今年度は患者の状態変化や介入プロセスの傾向を記述・把握することを主たる目的とする。その上で、得られた知見をもとに評価指標や介入方法の妥当性を検討し、以降の検証的な調査・研究につなげるための基盤を構築する。

(2) 対象及び方法

①研究デザイン

診療録調査による記述的研究

②研究対象

2026 年 1 月 1 日から 2026 年 6 月 30 日までに牧野記念病院の本館 3 階病棟へ入院した整形外科患者のうち、入院中に他科併診または転科となった患者を対象とする。

③データ収集方法

電子カルテより以下の項目を収集する。

- 年齢
- 性別
- 主疾患
- 手術内容
- 既往歴
- 内科的合併症
- 認知症の有無
- 入院前 ADL
- 転科時 ADL
- 入院期間
- 他科併診時期
- 他科併診理由
- 転科理由
- 転科までの日数
- 転帰
-

④分析方法

対象者の背景および診療情報を単純集計し、転科理由を分類する。

さらに、患者背景、内科的合併症、他科併診時期、転科までの経過を比較・整理し、転科に関連する要因および早期介入可能な時期について検討する。

(3) 実施場所及び実施期間

①実施場所

牧野記念病院 地域包括ケア病棟

電子カルテ

②実施期間

2026 年 7 月　研究計画書作成

2026 年 8 月　データ収集・集計・分析

2026 年 9 月　考察・論文作成

(4) 審査を希望する理由

本研究は電子カルテを用いた診療録調査であり、患者の診療情報を研究目的で利用するため、研究対象者の人権および個人情報保護について倫理的審査を受ける必要がある。

5.人間を直接対象とした医学的研究及び医療行為における倫理的配慮について

(1) 医学的研究及び医療行為の対象となる個人への人権擁護

本研究は既存の電子カルテ情報を用いた診療録調査であり、新たな侵襲や介入は行わない。
収集したデータは匿名化し、データは研究目的以外には使用せず、研究結果を公表する際も個人が特定される情報は一切公表しない。

研究データはパスワード化して管理・保管し、研究終了後は病院の規程に従い適切に保管・廃棄する。

(2) 医学的研究及び医療行為の対象となる個人への利益と不利益

本研究による研究対象者への直接的な利益はない。
また、本研究は診療録情報のみを利用する観察研究であり、新たな侵襲や介入はないため、身体的・精神的負担は生じない。

個人情報漏えいのリスクに対しては、匿名化およびデータ管理を行うことで、そのリスクを最小限とする。

なお、本研究は施設倫理審査委員会の承認を得た後に実施し、病院の規程に基づき必要に応じて情報公開を行う。

(3) 医学的貢献度

本研究で傾向分類することで、地域包括ケア病棟における整形外科患者の転科関連要因が明らかになることが期待される。また、他科併診の適切な時期や早期介入につながる要因を整理することで、今後の多職種連携や看護実践の改善につながり、患者の状態悪化の予防や入院期間の適正化、ADL 低下の予防、安全な退院支援に繋げることが期待される。

(4) 医学的研究及び医療行為の対象となる個人に理解を求め同意を得る方法

本研究は電子カルテを用いた既存診療情報のみを利用する診療録調査研究であり、新たな侵襲や介入は行われず、対象者への個別同意は行わない。

研究は倫理審査委員会の承認を得て実施し、個人情報の匿名化および適切な管理を実施する。

6.その他の参考事項（本課題に関連した国内外の事情、文献など）

注意事項　1.　1～5 は必ず記入すること。

2.　審査対象となる参考資料があれば 2 部添付して下さい。

3.　申請受付日時は毎月末までとする。

4.　※印は記入しないこと。

様式２

倫理委員会への諮問書

2026 年　7 月　30 日

倫理委員会審査委員長　殿

医療法人社団青葉会
牧野記念病院　院長
印

倫理委員会規程により、倫理委員会審査申請書（別紙様式 1）にある諸項目について審査を委嘱します。